



春を感じる生き物たちの行動

春が近づく3月。今回は、この時期にだけ見られる生き物たちの行動を紹介します。

●アカゲラの「キャッキャッキャッ」

アカゲラは2月後半になると、雄同士が雌を巡って争うようになり、「キャッキャッキャッ」とその時期にしか出さない声で鳴きながら追いかけていきます。ときにはつつき合うほど真剣に闘います。近くに雌がいてその様子を見守っていることもあり、雄2羽が飛ぶと雌がついていくこともあります。3月から4月にかけて、めでたくカップルとなった雄と雌は、少し離れて「コンコンコン」と軽い音で木をつつき合う「コール&レスポンス」をして愛を深めます。



●ハシブトガラのかんか

ハシブトガラも3月には激しい空中戦を繰り広げますが、ハシブトガラは外見から雌雄識別ができないので、それが雄同士か、雄が雌を追いかけているのかあるいは雌同士かは調べてみないと分かりません。

●ハシボソガラスの囀り？

ハシボソガラスは木の枝や電線時には地面で、翼を少し体から離して下に降ろして尾羽を半開きに広げ、首と尾羽を上下に振りながら「ガー ガー」と繰り返し鳴きます(下写真左)。ハシボソガラスも外見での雌雄識別はできませんが、雄が雌に向かってアピールする「囀り」の意味があるのではないかと考えられます。



●ハシボソガラスのくるみ割り

ハシボソガラスは、くるみをくわえて飛び上がり、地面に落として割って食べる行動が見られますが(左写真右)、オニグルミの実がなる初秋だけではなく、雪が解けてくるみが出てくる春にも行います。

●地面に降りるマヒワ、ツグミ

雪解けにより出てきた種子を食べにマヒワ(右写真上)やツグミが地面に降りてきます。日当たりなどの関係で周りより先に雪が解けた場所ではそれらの鳥たちを近くで観察できます。

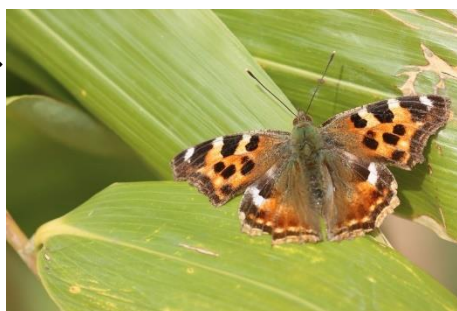
●エゾリスの集団行動

エゾリスは4匹から8匹ほど集まって「追いかけて」をしながらペアになる相手を探します。主に雄が雌を追いかけて、雄が他の雄を追いかけてもします。ただ、今年は3月4日に6匹、5日に4、5匹集まっていたので、今年はこの先この光景はもうあまり見られないかもしれません。



●成虫越冬する蝶エルタテハ

タテハチョウ科のエルタテハ(右写真左)、シータテハそしてクジャクチョウは成虫越冬します。まだ雪が残る中蝶が飛ぶ姿を見ると慣れないうちは驚きますが、春の訪れを告げる光景として強く印象に残ります。



旭山野鳥メモ③⑤ウグイス

ウグイス Japanese Bush Warbler *Horornis diphone* スズメ目ウグイス科

本州以南では留鳥、2月の立春の後に初鳴き。北海道では夏鳥で初鳴きは旭山では例年4月中旬。11月上旬まで滞在。

「ケキョケキョケキョ」とけたたましい鳴き声は「谷渡り」と呼ばれ、警戒時に出す声と言われるが、実際、近づくと「谷渡り」し始める。

ウグイスは一夫多妻で、1羽の雄が囀りする周りに数羽の雌がいる。8月まで囀りしている年もあるが、それは、もう一度繁殖行動をと雌を誘っているか、相手が見つけれなかった雄の最後のひとあがき。

笹藪の中で行動し姿を見るのは難しいが、時折高木の枝を移動しながら「ホーホケキョ」と囀る姿が見られる。秋になると「ヂッ チッ」と鳴きながら笹藪の中をさかんに移動するが、声を追っていくと笹が切れた辺りや道を横切る時に比較的容易に姿を見ることができる。

東京の鶯谷駅に「鶯色」のウグイスの絵のタイルがあるが、ウグイスは「鶯色」ではない。写真のように灰色がかかった茶褐色で緑みはほとんどない(むしろ外見が似るセンダイムシクイの方が「鶯色」)。「梅に鶯」というがこれもめったにない光景(ウグイスは基本開けた場所には出ないのと花の蜜は吸わない)。これらはその昔メジロと混同したからと言われているが、確かにメジロの方が色鮮やかで人目を惹き絵になる。

ウグイスの囀りは誰もが知るところと思っていたが、それをホトギスの声として覚えている人が意外と多いらしい。どちらも鳥の名前としては一般に膾炙しているが、取り違えて覚えてしまったのだろう。

喉を大きく膨らませてきれいな声で囀るウグイス。この春はぜひ姿を探して観察してみたい。



2022年3月の野鳥トピックス

- ・シマエナガ: 3月はほぼペアで見られておりそろそろ巣作りに入ります。2月にはイタヤカエデの樹液を飲みによく来ていました
- ・キクイタダキ: 観察機会は少ないですがこれから増えるかどうか
- ・ミソサザイ: 園内の沢周辺でときどき見られています
- ・マヒワ: 数羽から増えていますが日に1度は見られています
- ・ウソ: 声は園内でよく聞くようになり時々近くでも見られます
- ・キバシリ: 他の冬の鳥より早く例年3月末には見られなくなります
- ・ツグミ: 数は少ないまま雪解けを迎えそうです
- ・カケス: 園内でときおり観察されていますが今年は少ないです
- ・ヤマゲラ: 園内で毎日声を聞き近くでの観察・撮影情報も増えてきました
- ・クマゲラ: 園内の近くでの観察情報はまだ少ないですがこの先増えるものと予想されます



ヤマゲラ雄↑

■3月中の渡来が予想される夏鳥・・・キジバト、モズ、ヤマシギ、ホオジロ。確認次第 HP に情報上げます

まだある春を感じるもの・・・根明け、キタコブシの花芽

○木が受けた太陽光の輻射熱により木の周りの雪が丸く解けてゆく現象が「根明け」「根開け」「根開き」。

これは金属製の電柱や街路灯など人工物でも起こりますが、視覚的に春を感じるもののひとつでしょう。



○キタコブシの花芽は毛筆のような大きさや形で、白い毛に覆われふっくらとしています。

この春はどれだけ花が咲くでしょうか？ 楽しみです。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第99号 2022(令和4)年3月11日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時～16時) FAX 011-200-0351